

サービス学会 活動報告・表彰式

- ▶ 16時50分から開始いたします。今しばらくお待ち下さい。
- ▶ 活動報告・表彰式の様子は録画され、会員に対して公開いたします。
- ▶ 表彰者・説明者以外の方々は、映像オフ、マイクミュートの設定にてお願い致します。
- ▶ 本資料は、学会HPのトップページからダウンロードいただけます。

2026年6月29日





サービス学会の概況報告

戸谷 圭子
(会長、明治大学)

▶方向性

- ・ サービス学とはなにか（学術的な深化）
- ・ 社会および経済のサービスに関わる活動（社会と実業への貢献）

▶アクション

- ・ 文理融合
- ・ 産学連携
- ・ 国際連携 ※欧州・アジア国際会議への参加
- ・ 会員増 ※安定的な財務経営へ
 - 学生会員→正会員、協賛企業→賛助会員

▶行動指針

- ・ **ダイバーシティ & インクルージョン**に関する学会の基本理念

ダイバーシティ & インクルージョン diversity & inclusion

サービス学会では、ダイバーシティ & インクルージョンに関する基本理念と基本方針（案）を作成しました（2024年2月6日 理事会承認）。その後、原案に対して学会員の皆様からの意見を募り、正式版を公開するとともに英語版を作成しました。本基本理念と基本方針は、学会が今後取り組む諸活動に反映して参ります。

基本理念

サービス学会（以下、本学会）は、「社会のための学術」の構築に向けて、本学会に関わるすべての人の尊厳と多様性を尊重し、ダイバーシティ & インクルージョンの取り組みを推進します。本学会の研究対象であるサービスには、国籍、人種、民族、宗教、信条、出自、年齢、性別、性的指向・性自認、障がいなどの異なる個性を持った多様な人々が存在します。このような多様な個性はサービス研究を発展させていく上で不可欠な財産です。自分と異なる個性を差別したり偏見を持つこと、それを助長するような制約を設定することは、サービス研究を妨げるだけでなく個人の存在を脅かすことにつながり、決して許容されることではありません。本学会は、サービスに携わる様々な分野の研究者が相互に尊重し、多様な個性を受け入れ、サービス研究を発展させることを目指します。

基本方針

- ダイバーシティ & インクルージョンの推進を通じて、本学会の目的である「社会のための学術」の構築に資するサービス研究を行います。
- 本学会に関わる全ての人に対して、ダイバーシティ & インクルージョンへの理解促進と啓発活動を行います。
- サービスに関わる様々な分野の研究者が相互に尊重し、切磋琢磨できるコミュニティを構築していきます。
- ダイバーシティ & インクルージョンを阻害するような態度・言動に対しては、これを見逃さず、積極的に反対の声を上げます。

Basic Principles

The Society for Serviceology (hereinafter referred to as "the Society") is committed to respecting the dignity and diversity of all individuals involved with the Society and promoting diversity and inclusion in pursuit of building "academics for society." The services that are the subject of the Society's research encompass diverse individuals with unique characteristics such as nationality, race, ethnicity, religion, creed, origin, age, gender, sexual orientation, gender identity, and disability. These diverse characteristics are essential assets for the advancement of service research. Discrimination against or prejudice towards individuals with different characteristics, or setting constraints that promote such attitudes, not only hinders service research but also threatens the existence of individuals, and such actions can never be tolerated. The Society aims for researchers from various fields involved in services to respect each other, embrace diverse characteristics, and advance service research.

▶ 日本の学会活動を取り巻く状況

- 国際会議や論文に対する業績評価の変化
- 少子化、博士進学者減少に伴う「日本の国内学会のあり方」の議論
- 女性研究者への処遇と地位の向上
- 若手少数研究者への学会業務の集中

▶ サービス学会の課題

- 国内大会、国際会議（ICServ）、マガジン、ジャーナルなどのあり方
- 中核的会員数の伸び悩み
- 会長、副会長、理事の選出方法と代議員制の再検討
- 法人化の検討（代議員制と関連あり）

理事会(役員)と代議員 *26年6月～28年6月

▶ 理事会（赤字：新規、○：女性）

役 職		氏 名	所 属
理事	会長	○戸谷 圭子	明治大学
	副会長	内平 直志	北陸先端科学技術大学院大学
		持丸 正明	産業技術総合研究所
	事務局担当	原 辰徳	東京大学
	総務	幸島 明男	産業技術総合研究所
		丹野 慎太郎	サービタイジング・エクセレンス合同会社
	経営戦略	細野 繁	東京工科大学
	財務	西村 拓一	北陸先端科学技術大学院大学
		井上 祐樹	東京科学大学
	国内	○佐野 楓	和歌山大学
		木村 好孝	日本電気株式会社
		藤岡 昌則	サービスイノベーションラボ
	出版	増田 央	京都外国語大学
		渋谷 一夫	宮城大学
	事業企画	手塚 和宏	サービス産業生産性協議会
		○仁平 京子	千葉商科大学
		神田 正樹	京都先端科学大学
	国際	蔵田 武志	産業技術総合研究所
		○張 婧	金沢大学
		○眞田 貴絵	立命館アジア太平洋大学
		菊地 唯夫	ロイヤルホールディングス株式会社
監事		日高 一義	東京科学大学
		原 良憲	大阪成蹊大学

▶ 代議員（20名）

氏名	所属
船先 康平	サービス産業生産性協議会
善本 哲夫	立命館大学
和田 一義	東京都立大学
鈴木 雅彦	東日本旅客鉄道株式会社
近藤 朗	鹿児島女子短期大学
杉原 太郎	東京科学大学
山本 吉伸	福知山公立大学
水山 元	青山学院大学
上垣 映理子	株式会社日立製作所
大藪 亮	熊本大学
佐賀 亮介	大阪公立大学
井上 崇通	明治大学
伊集院 幸輝	北陸先端科学技術大学院大学
庄司 真人	亜細亜大学
高広 伯彦	同志社大学
佐藤 千尋	慶應義塾大学
梶川 忠彦	株式会社U'eyes Design
渋谷 行秀	株式会社MS&Consulting
横山 真弘	千葉商科大学
三浦 貴大	産業技術総合研究所

- ▶ 2024年6月の活動報告会にて、会長・副会長選挙の導入経緯を説明した
- ▶ 定款と各種規則を整備し、2024年11月に副会長選挙・会長信任投票を実施した
- ▶ 会長信任投票は過渡的対応。今後は、2年ごとに副会長選挙のみを実施する

副会長選挙（2026年度実施）

- ▶ 選挙細則の制定：本日
- ▶ 選挙管理委員会の設置：本日
- ▶ 告示：9月中旬（予定）
- ▶ 立候補受付期間：10月（予定）
- ▶ 選挙期間：11月～12月（予定）

副会長（次期会長、第8代）選挙細則

1. 本細則は、定款第 20 条第 2 項に規定された選挙として、副会長（次期会長、第 8 代）選挙を行うための詳細を規定するものである。
2. 副会長（次期会長、第 8 代）選挙への立候補を受け付ける。被選挙権を認める範囲は、2027 年 6 月までに正会員としての在籍期間が 3 年以上となる正会員であり、かつ過去に会長を務めたことのない正会員とする。
3. 副会長（次期会長、第 8 代）は正会員による直接選挙によって選出される。
4. 定款と細則にしたがって、選挙の実施方法の詳細については、理事会が「副会長（次期会長、第 8 代）選挙管理委員会」を組織し、そこに委ねる。副会長（次期会長、第 8 代）選挙管理委員会」は、副会長（次期会長、第 8 代）への立候補の意思がない理事ならびに正会員から 3 名以上を選考し、理事 1 名を委員長に選任する。
5. 副会長（次期会長、第 8 代）選挙は 2026 年度会期末までに完了させる。

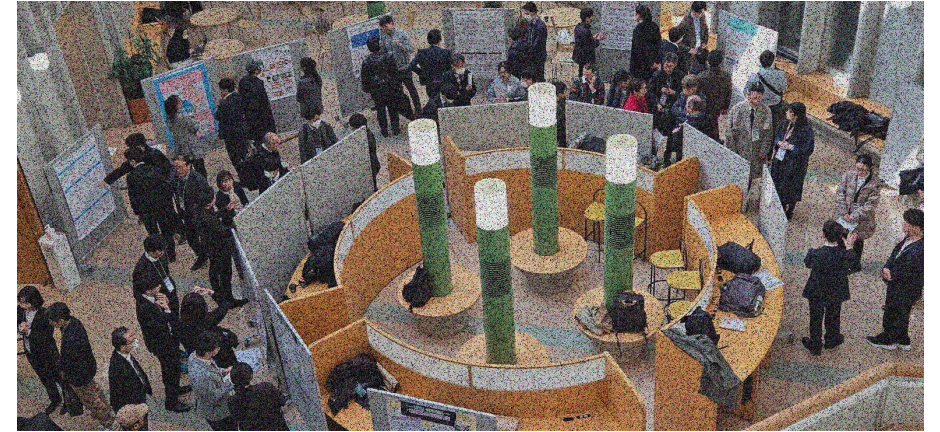
第14回国内大会：2026年3月3日～5日

- ▶ **会場**：千葉商科大学（市川キャンパス，千葉）
- ▶ **大会実行委員長**：神保雅人（千葉商科大学）
- ▶ **参加者数**：262名
- ▶ **発表件数**：一般口頭96件、OS口頭11件、ポスター19件



第15回国内大会：2027年3月16日～18日

- ▶ **会場**：金沢商工会議所会館（石川）
- ▶ **テーマ**：「サービス知性の探究」
- ▶ **大会実行委員長**：白肌邦生（北陸先端科学技術大学院大学）
- ▶ **プログラム委員長**：内平直志（北陸先端科学技術大学院大学）

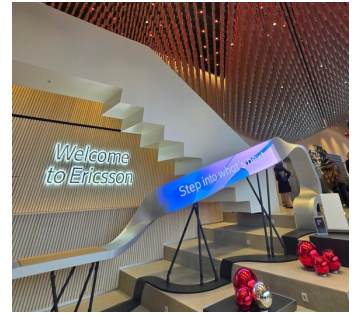
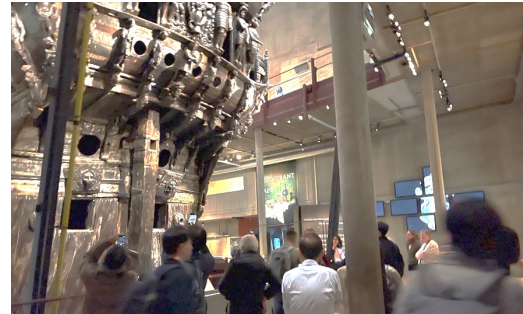


<https://www.goi.co.jp/building/shoukoukaigisho/>

- ▶ **期日** : 2025年12月1日～3日
- ▶ **会場** : ストックホルム商科大学
- ▶ **テーマ** : "Green Economy and Service Innovation
- Shaping the Future of Business and Society"
- ▶ **General Chair** : Prof. Patrik Ström (Stockholm School of Economics)
- ▶ **Co-General Chair** : Prof. Keiko Toya (Meiji University)
- ▶ **Program Chair** : Spring H. Han (Kyoto University)
- ▶ **参加者数** : 77名、発表件数48件
- ▶ **Conference Tour** : Ericsson(Solna)

Keynote Speech

- ▶ "TACK: A brief to being well and doing good?"
Micael Dahlen (Professor and Director, Center for Wellbeing, Welfare and Happiness, Stockholm School of Economics)
- ▶ "Rethinking Sales Management for Servitization in the Digital Era"
Christian Kowalkowski (Professor, Linköping University and Hanken School of Economics)



https://www.linkedin.com/posts/lukas-breustedt_icserv-serviceinnovation-greeneconomy-activity-7403689891089326083-cFnz/

2025年度の掲載状況など(24本)

- ▶ 特集：価値共創を促すコミュニケーションを求めて（3本掲載）
- ▶ 特集：サービスデザインの浸透と組織（5本掲載）
- ▶ 特集：価値共創促進コミュニケーション（3本掲載）
- ▶ 特集：従業員のデジタルコミュニケーション（2本掲載）
- ▶ 特集：2025年度特集を終えて（1本掲載）
- ▶ コラム：第13回国内大会参加・セッション報告（8本掲載）
- ▶ 一般：書籍紹介（1本掲載）
- ▶ 一般：サービソロジスト・ストーリーズ（1本掲載）

特集記事の記事一覧



特集記事 解説

2025年度特集を終えて -丹野 慎太郎/三竹 祐矢

2025年度もあつた。サービス学会のWebマガジン「サービソロジー」においても今年度を含め、今年度は、2つの特集「価値共創を促すコミュニケーションを求めて」、「サービスデザインの浸透と組織」から合計9本の記事公開を計画し、予定通り公開することができた。それぞれの特集の概要を簡単に振り返ると…

2026年3月19日



特集記事

ソーシャルインパクト 価値共創促進コミュニケーション

AIエージェントを受け入れる分人型社会において、人間とAIはいかに協働すべきか - 武田英明/増田央

本特集では、サービスにおけるコミュニケーションの意味やその促進のためのAI技術の利活用に関して考察する。特に人間（個人：individual）がどうあるべきかという本質的な問いに対して、文化人類学の非西欧的文脈から生まれた分人（dividual）概念（Strathern, 1988; Bruno and Rodrigu...

2026年2月26日



特集記事

サービスデザイン サービスデザインの浸透と組織

知識伝承活動のグランドデザイン・プロジェクト - 小早川真衣子/鎌田政智/伊集院幸輝

はじめに 情報技術の急速な進展や作業効率化の推進により、私たちは自らの仕事のやり方の根本的な問い直しを迫られている。こうした状況への対応は、個人の努力のみでは限界があり、組織全体として構成員の経験や知識の活用、さらには業務プロセスの再構築を含めた新たな働き方のデザインが求められる。この働き方とは本来、組織…

2026年1月19日



特集記事

サービスデザイン サービスデザインの浸透と組織

人間中心デザインを活用したサービスデザイン浸透に向けた取組 - 中村優花

はじめに 近年、デジタル技術の発展やDX、脱炭素社会実現に向けたGX等の進展に伴い、市民や顧客からのサービスに対する要求が一段と高まっており、企業や行政では、新規サービスの創出や既存サービスの改善等への期待から、これまでの組織の在り方を見直し、新たな体験価値を生み出すサービスデザインの組織導入・浸透を加速し…

2025年12月9日



特集記事

サービスデザイン 価値共創促進コミュニケーション

顧客をインフルエンサーにするリゾートホテル経営：顧客領域を考慮した価値共創の実践 - 窪山哲雄/本田路子/増田央

サービスの価値創造プロセスは、プロバイダー領域、ジョイント領域、顧客領域と呼ばれる3つの価値創造領域に区別できる（図1）。価値創造における顧客領域は、企業にとって閉鎖的であるが、顧客領域における顧客間のコミュニケーションが、価値創造に与える影響は大きい。本稿では、高級ホテルサービスの豊富な実践経験を有する…

2025年11月19日

2025年度の掲載状況

▶ Journal of Serviceology (英文誌)

- Original Paper : 0本

▶ サービス学会論文誌 (和文誌)

- 原著論文 : 6本
- 研究ノート : 0本

▶ サービスプラクティス

- 実践レポート : 0本

原著論文

- 顧客や非人的アクターと共創する独立系映画のサービス・オフラインプロセス：アクターネットワーク理論の翻訳を通じて
- 主体的で協働的な学びの実現に向けたICT教育サービスの価値共創モデルの提案
- サービス・ケイパビリティ再考：A2Aパースペクティブで捉えたダイナミック・ケイパビリティのミクロ的基礎における経営資源の活用能力に関する研究アジェンダ
- 共助に基づくサービスデザイン：共通善を基盤とした地域共創モデル
- 持続可能な地域づくりの価値共創：新潟県湯沢町活性化事例の分析
- オンデマンド交通とカーシェアを組み合わせたRural MaaSモデルの試み～鳥取市事例からの考察

▶ SIGとは

- ・ サービス学会員が**特定の興味を持つ分野についてグループ**を作り、研究状況や実施事例などの**情報交換を行う場**。
- ・ 活動期間は原則として、設置が承認された日から原則2年間（4月～3月を1年間とする）。

▶ これから企画される方へ

- ・ **文理、産学の融合**を目指した（既存のSIGと重複しない）テーマを提案頂くことが理想です。
- ・ SIGでの議論や研究の成果をサービス学会の大会・論文誌等で共有してください。
- ・ その他、詳しくは**学会HPのSIG紹介**をご覧ください。
<http://ja.serviceology.org/sig/>



▶ 御関心のある方へ

- ・ SIGへの参加は原則として学会員に開かれているものですが、個別のSIGに応じて運営上の考えが異なる場合があります。
- ・ SIG活動では、できるだけ**積極的にメンバーと価値共創する意識**をお持ちいただきますよう、お願いいたします。

- ▶ Practice SIG : 実学・ウェルビーイング・サービス研究会
- ▶ Sustainability SIG : SDG's Innovation
- ▶ Education SIG : AI教育サービス
- ▶ Supply chain SIG : グリーン社会の実現を目指したSCMの創成
- ▶ Tourism SIG : ツーリズム・イノベーションと価値共創

各SIGの活動報告は、学会HPを参照ください

- ▶ 日時：2025年10月～2026年1月に月1回開催（全4回）
- ▶ 対象：サービス学会員（入会希望者を含む）で企業等の実務家 20名程度（定員）
- ▶ 参加費：全4回 10,000円
- ▶ 座学講義のみならず、コーディネーターの解説の下、ディスカッションやグループワークを交えて実施



Society for
Serviceology
サービス学会 presents

大好評につき、今年度も開催！

企業人のための「サービス学」講座

【サービス学会とは】

2012年の設立より、社会科学、人間科学、理工学を問わず、サービスに関わる様々な分野の研究者が集い実務家を交えた活発な交流を行っています。文理を超えた多様な専門性を持つ研究者と企業との共同研究にも積極的に取り組んでいます。 WEBサイト： <http://ja.serviceology.org/>

本講座では、それぞれの専門性からサービス学を探究する研究者が登場し、アカデミックの知見をわかりやすく学ぶとともに、その知見を企業活動にどのように活かせるのかを企業でのサービス改革プロジェクトの経験豊富なコーディネーターが紐解きながら、参加者との議論を通じてサービスに対する気づきを深めます。本講座は、サービス研究の取り組みに新たに触れるきっかけにしたいという思いから、なるべくご参加しやすい形にしています。初めての方もぜひ積極的にご参加ください。

■ 日程／プログラム 各回とも16:00～18:00の対面開催（およそ時間の半分で講義、半分で議論）
回ごとの参加可。初回と最終回は希望者で懇親会を予定（費用別途）
※ 各回テーマは昨年度と同様です。初めての方歓迎いたします。

日程	テーマ（案）	講師
第1回 2025年 10月7日(火)	サービス学とは何か ～サービスビジネスに科学を実装する	産業技術総合研究所 フェロー 持丸 正明 氏
第2回 2025年 11月5日(水)	サービスシステムの価値と 人的資本経営	産業技術総合研究所 人間社会拡張研究部門 副研究部門長 竹中 毅 氏
第3回 2025年 12月22日(月)	データサイエンスが切り拓く サービス経営	東京理科大学経営学部・ 大学院経営学研究科 教授 理事 椿 美智子 氏
第4回 2026年 1月21日(水)	工学からサービス学へ ～サービスエクセレンスに組織で挑む	東京大学大学院 工学系研究科 人工物工学研究センター准教授 原 辰徳 氏

各回コーディネーター：サービス・サイエンティスト 松井 拓己 氏

■ 会 場 東京大学（本郷キャンパス）工学部14号館

3階330号室（第1回、第3回、第4回） / 1階142講義室（第2回）

■ 対 象 企業等の実務家 15名程度

■ 参加費 全4回 10,000円、各回参加の場合は1回あたり5,000円（いずれも消費税込）

※ 支払方法はクレジット決済（対応ブランド：VISA、Master、JCB）のみ。申込時の登録メールアドレスに請求書とカード決済のリンクを送ります。申込後のキャンセル・返金は承ることができませんのでご注意ください。

お申込みフォーム

<https://forms.gle/RcxFKzCMuQrZKKGX8>

※ お申込み期限：全4回 10月2日(木)まで 各回参加 開催3営業日前まで
※ お問い合わせ先：サービス学会事務局 seminar-sec@serviceology.org



表彰式 (学会活動貢献賞)

▶ 2017年1月30日制定, 2023年1月24日 改定

...

▶ 第3章 学会活動貢献賞

- 第16条 学会活動貢献賞は、本会の特定分野の運営、または会員サービスの向上等に関して、顕著な貢献を行った個人、または組織に贈呈する。
2. 学会活動貢献賞を受ける者は、非会員であっても差し支えない。また、貢献内容が異なるものであれば、同一人が重ねて受賞しても差し支えない。学会活動貢献賞を受ける者が、組織の場合には、その代表者（複数名可）とする。
- 第17条 学会活動貢献賞の選考委員会は、総務委員会をあてる。
- 第18条 学会活動貢献賞は、毎年3件以内を選定する。
- 第19条 学会活動貢献賞の受賞に対し、賞状および賞牌を贈呈する。

...



株式会社日立製作所 殿（代表者 平井千秋※ 殿、長岡晴子※ 殿）

▶“サービス学会国内大会における継続的かつ多数の学術発表”

- 株式会社日立製作所は、サービス学会国内大会において、第11回大会8件、第12回大会10件、第13回大会7件、第14回大会7件と、継続的かつ多数の学術発表を行い、サービス研究の蓄積と発展に多大な貢献をされた。
- 特に、代表者である平井千秋氏、長岡晴子氏は、組織内において国内大会への発表を奨励するのみならず、アブストラクトや論文の書き方等に関する勉強会を主催し、学会発表に不慣れな若手研究者やデザイナーをも巻き込んだ発表支援体制を構築してこられた。また、発表者は特定の個人に限られず多様なメンバーが幅広いテーマで登壇しており、組織内に学会参加の文化が広く根付いていることを示している。
- こうした地道かつ継続的な取り組みは、他の企業や会員にとっても模範となるものであり、サービス学における産学連携の深化と研究コミュニティの裾野拡大に大きく寄与している。以上の功績から、株式会社日立製作所に対して学会活動貢献賞を贈賞する。

松井 拓己 殿※、椿 美智子殿※、野沢 清 殿※、手塚 和宏※ 殿**

▶“企業人のための「サービス学」講座の立上げと運営”

- 松井拓己氏、椿美智子氏、野沢清氏、手塚和宏氏は、サービス学会主催「企業人のための『サービス学』講座」の企画・立上げおよび運営に多大な貢献をされた。
- 本講座は、企業等の実務家を対象とした全4回シリーズの講座であり、各回、サービス学を専門とする研究者の講義とコーディネーターを交えた議論を組み合わせ、アカデミックな知見をビジネス実践に活かす機会を提供している。参加者間の交流や意見交換を密に行うため、あえて定員を20名程度の少人数に絞り、講師・受講者間および受講者同士が深く対話できる場として、参加者から高い満足度を得ている。
- 本講座の立上げに至るまでも、複数の試行を重ねて企画を磨き上げ、2024年度の開始以来、継続的に実施され、軌道に乗った活動として定着しつつある。学会員に留まらず非学会員の企業人にも広く参加を呼びかけることで、サービス学会への関心の喚起、産学連携の促進、会員基盤の拡大に貢献した。以上の功績から、上記4名に対して学会活動貢献賞を贈賞する。

嶋田 敏 殿、高橋 裕紀** 殿、ホー バック** 殿、原 辰徳※ 殿、緒方 大樹※ 殿**

▶“サービス学会国内大会における若手意見交換会&懇談会の継続的運営”

- 嶋田敏氏、高橋裕紀氏、ホーバック氏、原辰徳氏、緒方大樹氏は、サービス学会国内大会における若手意見交換会（ランチミーティング）および懇談会を長年にわたり継続的に企画・運営し、若手研究者間の相互理解の促進と学際的交流に多大な貢献をされた。
- 本会は、2012年に発足したSIG「下剋上プロジェクト」、学会誌サービソロジー／Webマガジン記事「若手がゆく！」等、若手を中心とした学会内の諸企画とも連動しつつ、文系・理系を問わず若手研究者が分野の壁を越えて対話する場として定着し、毎回約20名程度の参加を集めて開催されている。
- 発足初期は緒方大樹氏、原辰徳氏が中心となって運営にあたり、その後、嶋田敏氏、高橋裕紀氏、ホーバック氏を中心に運営が引き継がれている。参加者自身が後年に運営側へと回るといった継承の流れも生み出しており、サービス学を担う次世代研究者の継続的な育成と学際的コミュニティの活性化に寄与した。以上の功績から、上記5名に対して学会活動貢献賞を贈賞する。

経営戦略・WGからの活動報告

▶ 将来構想検討WG（蔵田武志 理事より）

- 主査：蔵田武志、椿美智子、松井拓己

▶ 産学交流企画、サービス学ロードマップ検討WG（細野繁 理事より）

- 産学交流企画「サービス現場の新たな課題と挑戦」（第2回, 第3回報告）
- 第14回国内大会セッション「サービス学ロードマップの検討と展開」（主査：原辰徳、細野繁）

▶ サービス学フォーメーション（増田央 理事より）

- 主査：村松潤一、根本裕太郎、増田央



<http://ja.serviceology.org/>